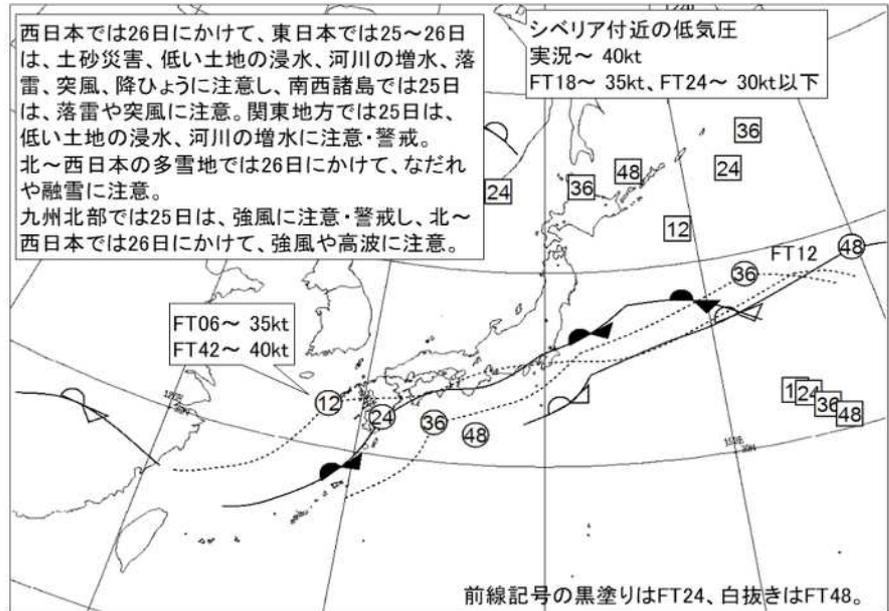


1. 実況上の着目点

- ① 高気圧が中国東北区と日本の東にあって東へ移動。北海道地方では高気圧とシベリアの低気圧との間で気圧の傾きが大きく、波の高い所がある。
- ② 500hPa 5700m付近の強風軸に対応する前線が、華中～東シナ海～本州の南～日本の東へのびている。前線上の東シナ海には低気圧があって東北東進。前線付近の対馬近海から日本海西部で強い雨を解析。
- ③ 850hPaの0°C線は、東北地方付近にあり、東北地方以南の850hPaの気温は平年より10°C前後高くなっている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の気圧の傾きは次第に緩んできているが、北海道地方では、24日は高波に注意。
- ② 1項②の低気圧は25日にかけて九州を通過して四国の南へ進み、本州の南岸にのびる前線は東～西日本付近に北上する。この低気圧はトラフに先行されて25日以後は発達を抑えられるが、25日朝には東日本の太平洋側の前線に向かって850hPa 315K程度の下層暖湿気が流入し、対応して前線上のキンクが発生し、25日夜にかけて東進する。低気圧や前線、前線上のキンクに向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、激しい雨が降って大雨となる所がある。西日本では26日にかけて、東日本では25～26日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風、降ひょうに注意し、南西諸島では25日は、落雷や突風に注意。関東地方では25日は、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、低気圧や前線の影響で、強い風が吹き、波が高くなる所がある。九州北部では25日は、強風に注意・警戒し、西日本では26日にかけて、北～東日本では25～26日は、強風や高波に注意。
- ③ 1項③の気温の高い状態は、北～西日本では26日にかけて続く。気温の上昇と2項②の降水の影響で、雪解けが急速に進む所がある。北～西日本の多雪地では26日にかけて、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：九州北部150、九州南部120、四国100mm。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・関東・伊豆諸島・東海・近畿・中国・九州北部・九州南部3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。